

松谷会長記者会見の概要

日 時：令和3年6月11日（金）15時00分～15時25分

場 所：（オンライン記者会見）

記者：

3点ほど伺いたい。1点目に、5月のマーケット環境が投資信託の運用にプラスに作用したとのことであるが、その要因について詳細を伺いたい。2点目に、5月の日本銀行のETFの買入れはなかったと思うが、ETFへの資金流入額（3,931億円）は大きく感じる。この背景についてはどのようにみているか。3点目として、MRFについて伺いたい。3ヶ月連続での資金流出は1年ぶりと思うが、どのようにみているか。

市倉統計情報部長：

まず、1点目のご質問であるが、主な商品分類別の運用増加の要因として、国内株式型は、東証株価指数（TOPIX）の上昇等を受けて6,321億円の運用増と、5月の商品分類（15分類）の中で最大の運用額となった。海外株式型は、ダウ工業株30種平均株価が上昇したこと等により1,207億円の運用増、内外株式型は、ナスダック総合指数が1.5%ほど下落したこと等を受けて、3,109億円の運用減となった。

2点目のご質問について、5月は日本銀行によるETFの買入れはなかったが、ETFへの純資金流入額は3,931億円と、この1年間のETFの月間純資金流入額の平均額約3,600億円をやや上回る水準であった。この背景としては、ETFの組成やETFの裁定取引等による機関投資家の買い需要があったのではないかと考えられる。

3点目のご質問について、5月は個人投資家が国内株式を1,500億円ほど売り越しているため、MRFへの資金流入にはプラスの要因に働いたと見ているが、結果として純資金流出になったが、主に投資信託等の買付け代金に充てられたと考えられる。

記者：

投資信託の買付けに動く投資家が多かった背景として、どのような要因が投資家の投資判断に働いたとみているか。

市倉統計情報部長：

投資家により、投資家属性、リスク許容度、投資期間が異なるので一概には言えない。大局的には主にラップ向けのファンドで、国内株式から海外株式への資金のリバランスが発生したこと、また、ネット証券向けのインデックス型ファンドに資金が集まったことなどから、国内株式型から資金が流出し、海外株式型等へ資金が流入したことなどが要因の一つと考えられる。

松谷会長：

私から1点申し上げたい。投資信託協会の有識者研究会「すべての人に世界の成長を届

ける研究会（通称：つみけん）」については、この会見の場でも何度か説明させていただいているが、5月31日に初年度の活動状況をまとめた報告書をリリースした。また、6月9日には、協会のホームページに「つみけんサイト」を開設させていただいた。この「つみけんサイト」には、各所にある資産形成に関連するデータがほぼ集約されており、資産形成の進捗状況をモニターしたり、調査・分析に活用いただくことを想定している。まだスタートしたばかりではあるが、皆様のご意見等をいただきながら、有用なサイトにしていきたいと思っている。

報告書に関しては、「2041年のありたい姿」を掲げ、SDGsがそうであるように、2041年のビジョンを描いたうえで目標値を設定し、個人投資家、政府、金融機関、メディアの方々がどのようにしたら目標を達成することができるのか、議論が進展していくことを期待している。100ページを超える報告書となっているが、資産形成が今まで進まなかった要因や、どのようにしたら資産形成が進むのかを整理するとともに、具体的施策を論じた研究員によるレポート「15のアイデア」も掲載されているので参考になれば幸いである。

既に一部記者の方々からは取材の申込みをいただいているが、私どもにご連絡いただければ、この報告書の背景及び内容等について詳しくご説明をさせていただきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

以 上